

ヲ越、角榮エケル、ユ、シキ事ト思ヒシ程ニ、清盛、仁安三年十一月十一日、歳五十一ニテ重病ニ侵サレ、存命ノ爲ニ忽ニ出家入道ス、法名ハ静海ナリ、其驗ニヤ宿病立トコロニ愈テ、天命ヲ全クス、人ノ從ヒ付事ハ、吹風草木ヲ靡スガ如ク、世ノ偏ク仰グ事、ブル雨ノ國土ヲ潤スニ異ナラズ、サレバ六波羅殿ノ御一家ノ公達ト云テケレバ、花族モ英才モ、面ヲ向ヘ肩ヲ並ブル人ナカリケリ、太政入道ノ小舅ニ、平大納言時忠卿ノ常ノ言ニ、此一門ニアラヌモノハ、男モ女モ、尼法師モ人非人トゾ申サレケル、カ、リケレバ、如何ナル人モ相構ヘテ、其一門其ユカリニムスボレントゾシケル、昔吳王好劍客、百姓多癩瘡、楚王好細腰、宮中多餓死、城中好廣眉、四方且半額、城中好大袖、四方用疋帛ト云フ事アリ、サレバ烏帽子ノタメヤウ、衣紋ノカ、リヨリ始メテ、何事モ六波羅様ト云テケレバ、天下ノ人皆之ヲ學ビ、之ニ從ヒケリ、如何ナル賢王聖主ノ御政ヲモ、攝政關白ノ成敗ナレドモ、何トナク世ニアマサレタル徒者ナシト、謗リ傾ケ申スコトハ常ノ習ゾカシ、サレドモ此ノ入道ノ世ノ間ハ、聊モユルカセニ申スモノナカリケリ、略下

〔徒然草〕下西大寺靜然上人、腰カ、マまり眉しろく、誠にとしたけたる有さまにて、内裏へ參られたりけるを、西園寺内大臣殿、あなたうとのけしきやとて、信仰のきそくありければ、資朝卿これを見て、年のよりたるに候と申されけり、後日にむく犬の淺ましく老いさらばいて、毛はげたるをひかせて、この氣色たうとく見え候とて、内府へ參らせられたりけるとぞ、

〔慶長見聞集〕四西譽一人道心おこす事

古人は清貧にしてたのしみ、濁富にしてかなしび多しといへり、傳へ聞、ほうこじは持たる寶を船につみ海へ捨て、どくゑんに打成て世をたのしび給ふ、扱又九年已前の事なりしに、われ知る人多氣九郎左衛門と云ひし人は、江戸本兩替町に家屋敷有福德にして、まかも若き人なりしが、湯島の寺におはしける稱往上人のけうけを聞、後生こそ大切なれとて、持たる財寶打捨、髪をそ